こゝにいふ井上左衛門は實在の人物であるまい。

キノウヘサダユウ　井上左太夫　大聖寺藩士。通稱左太夫。治兵衛の次男。元文三年御用所書役となり、明和三年御右筆頭取に進み、八年九月藩侯の系譜を撰び、九年正月新知百三十石を受け、諸職を歷、安永七年正月致仕して遯齋と稱し、天明元年六月六十四歲を以て歿した。左太夫資性謹直、學を好み、江戸に赴くときは卽ち太宰春臺の門に遊んだ。

キノウヘジ　井上地（キノエジ）　珠洲郡宗末の內の小字。

キノウヘジユウザエモン　井上十左衛門　通稱初め傳五左衛門。寶永七年前田吉德の御部屋附御步に召抱へられ、御側小將附橫目を經て、享保十六年新知百二十石を賜はり、定番御步小頭となり、延享二年組外に班し、四年歿。子孫世々藩に仕へる。

キノウヘシユウダユウ　井上愀太夫　初名愀兵衛。本多安房守政行の家士であつたが、前田治脩の時天明五年八月新知百五十石を賜うて、組外に列し、御近習番に補せられた。子孫世々藩に仕へる。

キノウヘショウ　井上庄　河北郡に屬する。藩政時代では千木・福久・橫枕・法光寺・柳橋・百々坂・金市新保・荒屋・大場・八田・彌勒繩手・吉原・塚崎・月浦・南森下・涌波・下涌波・藥師・正部谷・高坂・車・釣部・牧山・不室・柚ノ木・小嶺・田ノ島・大崎・利屋町・太田・潟端新・南中條・北中條・五反田・中須加・中橋・川尻・加賀爪・庄・清水・津幡・淺田・杉ノ瀨・倉見・荒屋・七野・竹ノ橋・富田・別所・大坪・假生・材木・明神谷內・井野河內・淺野谷・淺野深谷・谷山・榎尾・俵等・朝日畑・相窪・中・上藤又・下藤又・大窪・北橫根・南橫根・橫濱・宮坂・本根布・大根布・荒屋・室・二俣の七十四ヶ村が之に屬してゐた。

キノウヘセツキヨ　井上雪譽　諱は美福、長三郎と稱し、珠洲郡宗末の人。高桑錦水及び岸岱の門に學んで畫を描いた。明治廿一年五月七十二歲にて歿。

キノウヘゼンキチ　井上善吉　初め新番に列し、三十五俵七人扶持を受け、前田齊廣の御近習となり、文化七年組外に班して百石を食み、後五十石を加へた。子孫藩に世襲する。

キノウヘトシキヨ　井上俊清　宮內權少輔。太平記に謂ふ普門藏人利清と同人で、越中に於ける宮方の士であつた。正平元年（貞和二）五月得江九郎頼員の軍忠狀に、今年三月六日俊清は能登に侵入して羽咋郡富來院木尾嶽城に據つたが、吉見掃部助氏頼の爲に五月四日攻落せられたとあり、同年吉見大藏大輔頼隆は越中に入り、松倉・水尾兩城に據つた俊清を討つて、閏九月之を降せしめたが、翌二年には俊清再び宮方に歸したと見えて、十一月十八日足利尊氏はその誅罰の爲に得田素章一族の發向を促して居り、三年（貞和四）素章は之に應じ、吉見氏頼に從うて出陣し、十月十二日俊清の松倉城を陷れた。

キノウヘナガマサ　井上長政　通稱勘左衛門。加賀の人。父は善左衛門。前田利家に仕へて五百石を賜はり、文祿征韓の役に從うて名護屋に赴いたが、豐臣秀吉麾下の士と爭うて之を殺し、歸國して知行を除かれ老臣太田長知に仕へた。次いで淺井畯の役に功を立て、利長より短刀及び黃金三枚を受け、翌年復利長に臣事して二百石を食み、大坂兩役にも出陣し、その後役には天王寺柵際で首二つを獲、祿漸く增して千三百石となり、使番・足輕頭・族奉行に擧げられ、寬永二年歿。子孫世々藩に仕へる。卯辰山に在つて一本松と稱せられた巨樹は、この長政の灰塚に植ゑたものであつたと傳へる。

キノウヘナガミチ　井上長通　通稱五左衛門・勘左衛門。五左衛門長矩の子。祿六百石。御步頭・御先手物頭・御用人に歷任し、元祿八年歿した。

キノウヘノリチカ　井上敎親　占病規範・古易又玄解等の著者。その周易翼傳の序は、文政元年少納言清原宣明の識した所であるが、その中に『井上敎親加賀人也。用ニ力于易學ニ三十年于茲。以ニ天授之才ニ潛ニ心乎此道ニ云々。』とあるが、未だその傳を得ぬ。

キノウヘヒヨウザエモン　井上兵左衛門　初め宇喜多秀家に屬したが、元和二年前田利常に來仕し、千三百石を受けた。子孫藩に世襲する。

キノウヘホテイマル　井上布袋丸　越中の士井上宮內權少輔俊清の子であらう。正平六年（觀應二）正月得江石王丸代長野彥五郎季光の軍忠狀に、去年十一月三日敵井上布袋丸・富來彥十郎以下羽咋郡富來院から打出で、鹿島郡花見槻に寄せ來つたのを迎へ討ち、四日飯田（羽咋郡飯山か）の陣から越中に擊退したとある。

キノウヘマサチカ　井上政親　通稱銀次郎・六左衛門・靱負。與力井上權太郎の子で藩士井上彌太郎に養はれ、天明七年幼少で先知三の一を領し、寬政三年三百五十石に復し、表小將・御使番より次第に昇進して御馬廻頭に至り、天保十一年祿百石を加へ、その年歿した。

キノウヘマサテル　井上方照　大聖寺藩士。通稱治兵衛、字は伯文。同藩の堀三郎左衛門に就いて心陰流の劍術を學んだが、江戸に於いて神道流・當流の外、堀內流の大太刀、卜傳流の中太刀、深甚流の小太刀を學び、遂に五起流を創め、又清水流・規矩流の算法を江戸の兵學者野中清兵衛鎭居より得、寶曆中去つて越前大野に赴き、遂に福井に出でゝ敎授した。

キノウヘマツノスケ　井上松之助　初名萬之助。祿四百石で組外に班し、前田重敎の御近習を勤めたが、天明三年十二月三日國を立退いた。

キノウヘモリスケ　井上盛亮　字は文甫、九嶷又は鳳梧と號した。乾祐直の門に遊ぶこと十餘年。盛亮、橫山隆達の乾乾樓の詩會に臨むときは、老儒先生といへども時に舍を避くることがあり、尤も律體に長じたが、年三十にして歿したといふ。未だその公歷の詳を得ぬ。

キノウヘモリノブ　井上盛陳　通稱傳次郎・藤兵衛・三左衛門・太郎兵衛。祿三百石。初め御大小將から御馬廻に轉じ、二ノ丸御賄式御用達、寬政十年正姬附物頭から御留守居物頭に至り、文化三年七月隱居して二十人扶持を受けた。

キノウヘモロカタ　井上師方　源平盛衰記に『木曾五萬餘騎を引率して上洛して、武士京中に充滿て家々に亂入、門には白旗を打立て、家主を追出し、財寶を追捕す云々。加賀